



わきやあまみ 14

あまみぐんとう

奄美群島の

クジラとイルカ

2015年3月発行

制作 奄美自然体験活動推進協議会 環境省奄美野生生物保護センター

写真・協力 奄美海洋生物研究会／奄美クジラ・イルカ協会 興克樹

参考文献

平成25年度クジラ類ウォッチング可能性調査事業報告書（奄美海洋生物研究会）

平成26年度奄美大島周辺海域における鯨類調査及び利用者意向等把握調査業務報告書（奄美海洋生物研究会）

新版 鯨とイルカのフィールドガイド（東京大学出版会 監修：大隅清治）

クジラ&イルカ生態ビジュアル図鑑（誠文堂新光社 著：水口博也）

海の王者ザトウクジラⅡ【日本近海の鯨類基礎調査1991～2000】（財団法人東海財団 編著：内田詮三）

世界大動物図鑑（ネコ・パブリッシング 総編集：デイヴィッド・バーニー）

ホネからわかる！動物ふしぎ図鑑③海の動物たち（日本図書センター 監修：富田京一）

鯨類学（東海大学出版会 編著：村山司）

# はじめに

奄美群島<sup>あまみぐんとう</sup>を<sup>む</sup>行き来するフェリーに乗っていると、運がよければクジラが海面から潮<sup>しほ</sup>をふき上げる様子や、イルカの群れが泳いでいるのを見られるかもしれません。わたしたちの普段<sup>ふだん</sup>の生活ではなかなかそのような場面に出会うことはありませんが、かつて奄美群島<sup>あまみぐんとう</sup>では捕鯨<sup>ほげい</sup>（クジラを捕まえること）が盛ん<sup>さか</sup>に行われていた時期がありました。最近<sup>さいきん</sup>の調査<sup>ちようさ</sup>では、奄美群島<sup>あまみぐんとう</sup>の近海には多くのクジラが回遊<sup>かくにん</sup>していることが確認されています。またイルカも年中生息<sup>せいそく</sup>しています。そういったこともあって、奄美のクジラやイルカを船<sup>かんさつ</sup>から観察しようとするウォッチングツアーに最近<sup>さいきん</sup>人気が出始めています。そこで、クジラやイルカの生息<sup>せいそく</sup>に影響<sup>えいきよう</sup>を与えないよう、事業者同士<sup>あまたりどうし</sup>で自主的<sup>じしゆてき</sup>にルールを定めて観察<sup>かんさつ</sup>しています。

わきゃあまみ<sup>14</sup>では最近<sup>さいきん</sup>注目を集める奄美群島<sup>あまみぐんとう</sup>のクジラとイルカの種類<sup>しゆるい</sup>や生態<sup>せいたい</sup>について紹介<sup>しょうかい</sup>します。わたしたちの島をかこむ海に住むこの不思議<sup>ふしぎ</sup>な生きものに思いをはせてみてください。



ハシナガイルカ

## クジラ・イルカってどんな生きもの??

水中で生活<sup>せいふく</sup>していて、すがたは魚<sup>いし</sup>にそっくり



お尾びれは左右<sup>さゆう</sup>に動く

魚<sup>いし</sup>は

- エラ呼吸<sup>こきゅう</sup>
- たまごで生まれる

でも

私たち人間<sup>にんげん</sup>と同じで「ほ乳類<sup>にゅうるい</sup>」なんです



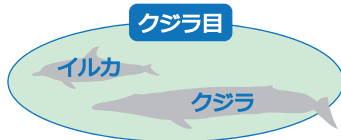
お尾びれは上下<sup>じやうげ</sup>に動く

クジラ・イルカは

- 肺呼吸<sup>はいこきゅう</sup>
- 赤ちゃん<sup>あかちゃん</sup>で生み、母乳<sup>ぼにゅう</sup>で育てる

クジラ、イルカとわけられています、2つとも同じ「クジラ目<sup>くじらめ</sup>」の仲間<sup>なかま</sup>です。

### クジラ目



大きさがだいたい4 m以上のものを「クジラ」、それ以下<sup>いげ</sup>のものが「イルカ」です。しかし、大きさをいうとクジラに入るものをイルカと呼ぶ<sup>よ</sup>こともあり（またその逆<sup>さか</sup>もあります）、「クジラ」「イルカ」のわけ方は、おおざっぱ<sup>ざつぱ</sup>であいまいです。

クジラ目は、ヒゲクジラとハクジラにわけられます。

クジラ目 — [ ヒゲクジラ  
ハクジラ

# 「クジラ目」はヒゲクジラとハクジラの2つに分けられます

それぞれの体のつくりと特徴を見ていきましょう

## ヒゲクジラとは

歯がなく、かわりに

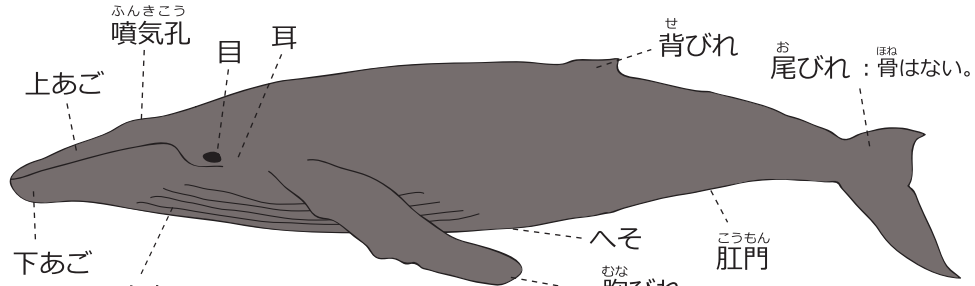
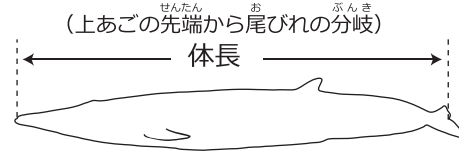
**ヒゲ板**がある。

ヒゲ板…上あごにあるヒゲのような細くかたい毛

ふんきこう  
噴気孔は **2つ**。



ふんきこう  
噴気孔：  
人でいうと鼻。ここで呼吸をする。  
しゅるい 種類によって位置がちがう。



ウネ：

あごからおへそのあたりまで、長い溝が何十も通っている。エサを捕る際、アコーディオン状に大きく膨らむ。ただしセミクジラはウネがないためふくらまない。

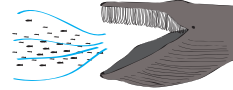


しお  
潮ふき (ブロー)

呼吸のため、噴気孔を海面上に出し、息をふき出したときにできるものです。この潮は周りの海水や肺から出る湿った空気です。ブローの形は種類によってちがうため、ブローで種類を見わけることができます。

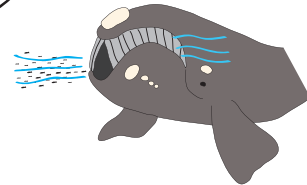


体内の海水がふき出す  
と思っている人が  
多いですが、これは  
間違いです。



エサ (オキアミや魚など) を捕るときは、海水と一緒にエサを飲みこみ、舌を使って海水をヒゲ板の間から出して、エサだけを食べます。

セミクジラの場合



口をあけたまま泳ぎ、海水はヒゲ板の間をとおらず、エサはヒゲ板にひっかかります。

## ハクジラとは

**歯**がある。

ふんきこう  
噴気孔は **1つ**。

メロンを使った

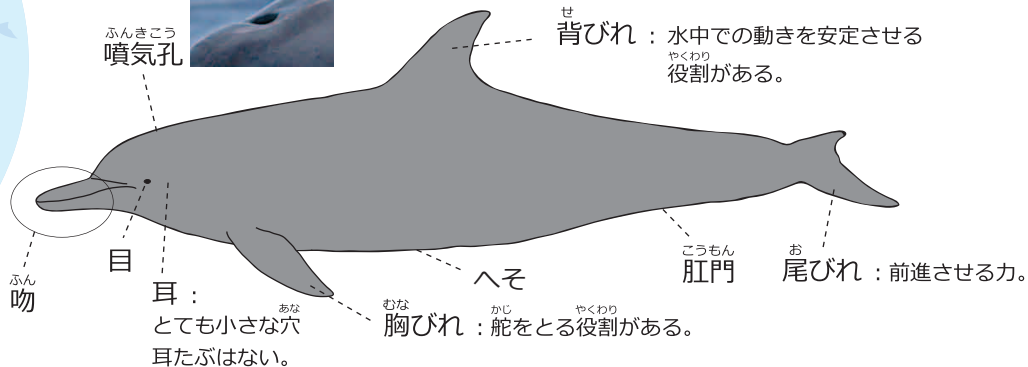
**エコーロケーション**

を使う。

メロン…頭部にある脂肪のかたまり



ふんきこう  
噴気孔



背びれ：水中での動きを安定させる役割がある。

耳：  
とても小さな穴  
耳たぶはない。

胸びれ：舵をとる役割がある。

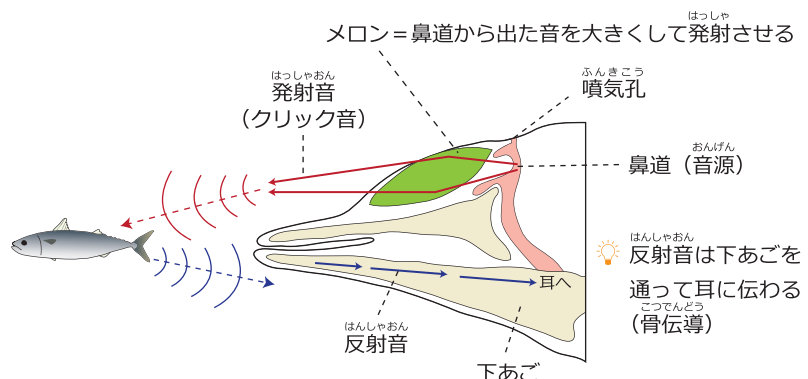
尾びれ：前進させる力。

## ハクジラのエコーロケーション

ハクジラは、目だけではなくエコーロケーションを使うことによってエサを見つけたり、周りの様子を知ることができます。エコーロケーションとは、自分で出した鳴き声かものがぶつかってはなかってきた音で、ものの位置や大きさを知る能力です。頭にある脂肪のかたまりであるメロンが重要な役割をはたしています。



ぼくもエコーロケーションを使ってるよ〜 (コウモリ)



反射音は下あごを  
通って耳に伝わる  
(骨伝導)

# クジラとイルカのストランディングを調べる

## ストランディングとは？

海に住んでいる生きものが、生きてまま岸にのりあげてしまったり、死体が流れ着くことを言います。ストランディングの情報を集め、調べることによって、その生きものがどういった生活を送っているか、どのあたりに住んでいるのかなどを知ることができます。

### 死体が発見されたら

発見された死体はとて大事な研究材料となるため、研究機関などの専門家が計測・解剖を行います。計測と解剖から、種類、死んだ理由、胃の内容物などさまざまなことがわかります。また、解剖後は死体を砂浜にうめて、その後骨を取り出し、骨格標本を作ります。



さまざまな種類が打ち上げられます



もしストランディングを見つけたらどうすればよいのでしょうか？



さわ  
触らない



れんらく  
連絡する



と  
写真撮る

- **死体を見つけた場合**は、決して素手で触らないようにしましょう。病原菌などをもっている場合があります。
- **生きて状態で発見した場合**は、自分たちだけで海にもどそうとしないで下さい。専門家が来るまで待つか、もしくはアドバイスをもらうようにしましょう。力が強いので、人への被害が出ることもありますし、間違った対処をしてしまうと、逆にクジラ・イルカを死なせてしまうこともあります。

💡 見つけたらまず、  
県か各市町村の役場に連絡をしましょう。  
※または、奄美海洋生物研究会  
090-8914-9801 まで

💡 写真を撮り記録を残すことは、とても重要です。  
専門家が来られない場合でも、その写真から多くの情報を得ることができます。  
※写真はさまざまな部分をさまざまな位置から撮るようにしましょう

Q. この白い物体はなんだろう？

海岸に打ち上げられたこの白い物体はいったいなんなのでしょう？  
未確認生物!? はたまた人工物なのでしょうか？

⋮

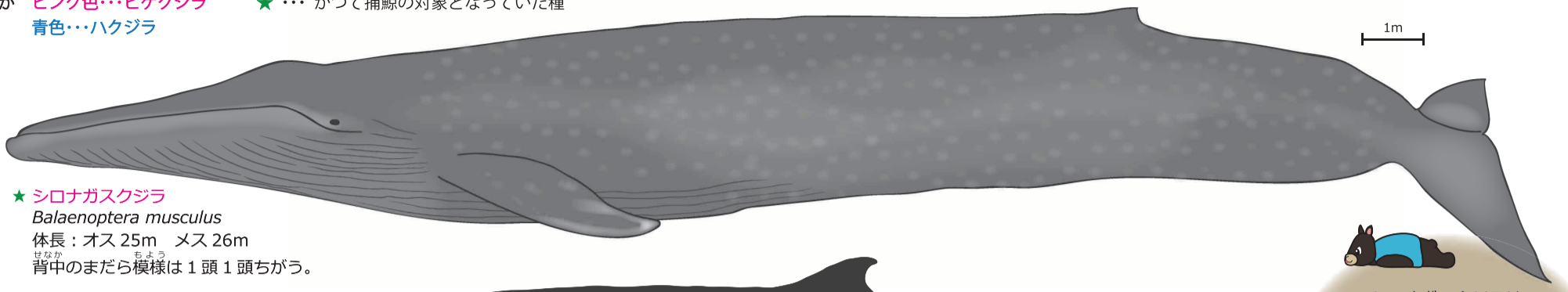
A. マッコウクジラの鯨蠟(または脳油)

メロンと同じような機能をもった脂肪のかたまりで、他のクジラのメロンとは異なる性質を持っています。マッコウクジラは水深 1000m 近くまで深くもぐり、イカやタコなどのエサを探しますが、深くもぐるときにこの鯨蠟が大きな役割をはたしていると言われていました。しかしいまだ鯨蠟のくわしい役割は解明されていません。



あまみぐんと しゅうへん  
奄美群島の周辺の海で見られるクジラ・イルカ

名前が **ピンク色…ヒゲクジラ** ★…かつて捕鯨の対象となっていた種  
**青色…ハクジラ**



★ **シロナガスクジラ**  
*Balaenoptera musculus*  
体長：オス 25m メス 26m  
背中のだら模様は1頭1頭ちがう。



シロナガスクジラは  
世界で最大の動物！  
あまくろの身長を  
160cm とすると、  
どれくらい大きいかわかります。



★ **ナガスクジラ** *Balaenoptera physalus*  
体長：24m  
背びれは鎌の形をしている。



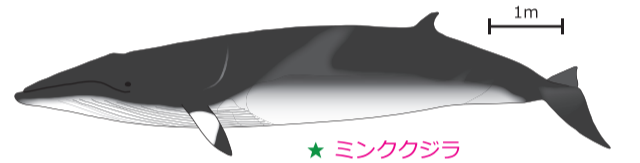
★ **ザトウクジラ**  
*Megaptera novaeangliae*  
体長：オス 15m メス 16m  
胸びれは、体長の3分の1の長さをもつ。



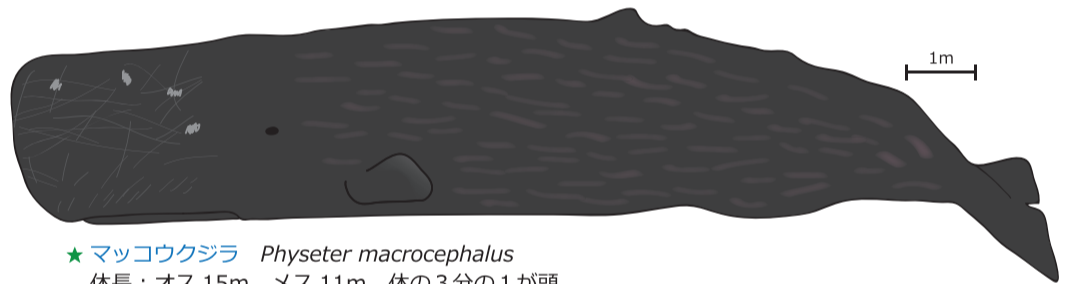
★ **ニタリクジラ** *Balaenoptera edeni*  
体長：オス 13.7m メス 14.5m  
吻の先から噴気孔にかけて3本の線がある。



★ **セミクジラ** *Eubalaena japonica*  
体長：18m  
背びれがない。  
2014年に17年ぶりに確認された。



★ **ミンククジラ**  
*Balaenoptera acutorostrata*  
体長：オス 7m メス 7.9m  
胸びれに白い帯がある。



★ **マッコウクジラ** *Physeter macrocephalus*  
体長：オス 15m メス 11m 体の3分の1が頭。



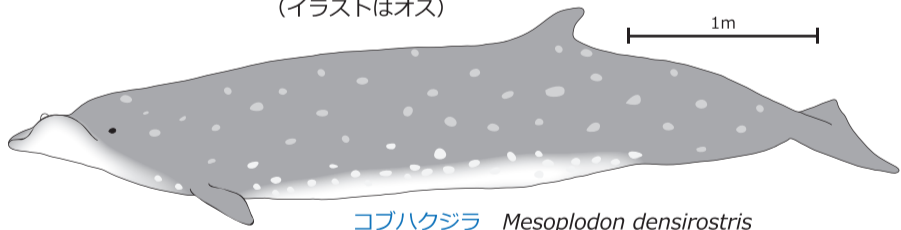
**シャチ** *Orcinus orca*  
体長：オス 6.7-8m メス 5.7-6.6m  
オスの背びれは直立して非常に高い。メスはその半分。  
(イラストはオス)



**コビレゴンドウ** (マゴンドウ型) *Globicephala macrorhynchus*  
体長：オス 5.2m メス 3.8m  
日本近海に生息するコビレゴンドウは、南方型がマゴンドウ型、北方型がタツバナ型とよばれる。



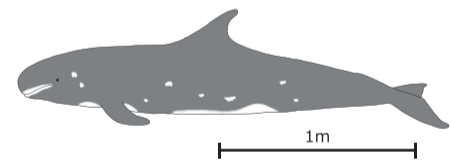
**オキゴンドウ**  
*Pseudorca crassidens*  
体長：オス 5.2-5.4m メス 4.3-4.6m  
胸びれがS字型をしている。



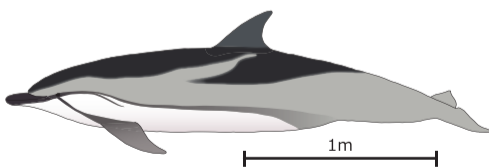
**コブハクジラ** *Mesoplodon densirostris*  
体長：4.7m  
下あごがアーチ状に大きくもり上がっていて、オトナのオスはその頂点に大きな歯の先端が出ている。



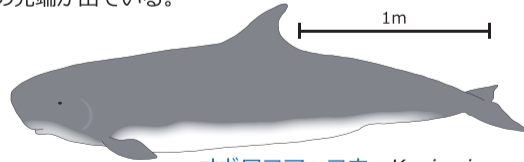
**コマッコウ** *Kogia breviceps*  
体長：3.3m  
小さくてずんぐりした体形でサメに似ている。



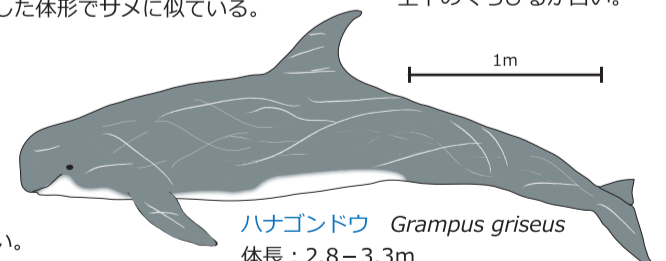
**ユメゴンドウ** *Feresa attenuata*  
体長：2.1-2.3m  
上下のくちびるが白い。



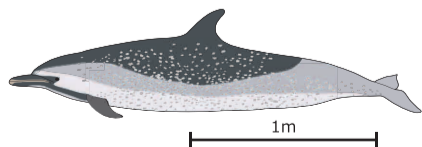
**スジイルカ** *Stenella coeruleoalba*  
体長：オス 2.3m メス 2.2m  
黒い線が、眼から胸びれ、眼から肛門までのびている。



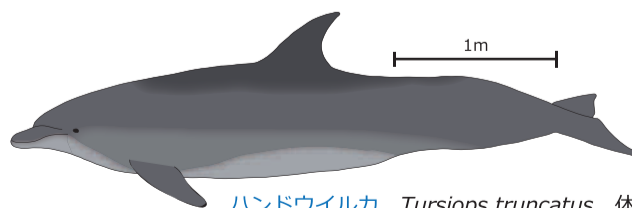
**オガワコマッコウ** *Kogia sima*  
体長：2.7m  
コマッコウに似ているが、背びれはコマッコウより大きい。



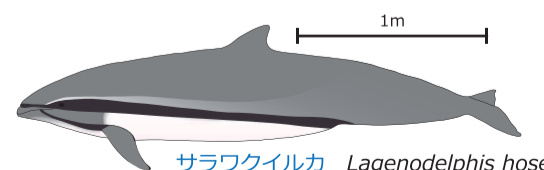
**ハナゴンドウ** *Grampus griseus*  
体長：2.8-3.3m  
白いひっかけ傷があり、歳をとると全体が白っぽくなる。



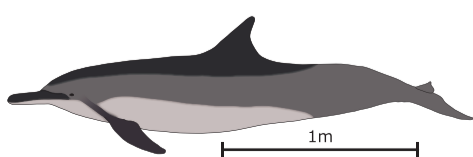
**マダライルカ** *Stenella attenuata* 体長：1.8-1.9m  
オトナは吻の先が白くなる。



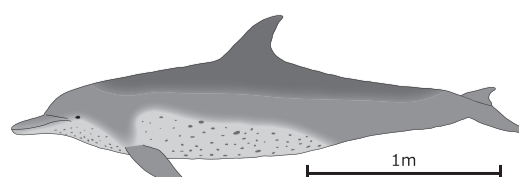
**ハンドウイルカ** *Tursiops truncatus* 体長：1.9-4m  
群れの大きさや地域によって、体長や体重に大きな差がある。



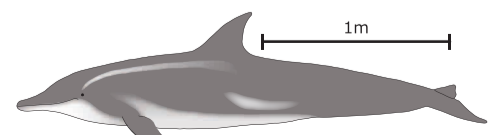
**サラワクイルカ** *Lagenodelphis hosei*  
体長：2.3-2.5m 吻が短い。



**ハシナギイルカ** *Stenella longirostris* 体長：1.7-2.2m  
体と吻が細長い。



**ミナミハンドウイルカ** *Tursiops aduncus*  
体長：オス 2.6m メス 2.5m オトナの腹部にははん点がある。



**シワイルカ** *Steno bredanensis*  
体長：2.4m メロンと吻のさかいがなくならぬ。

とくによく見られる

## ザトウクジラ と ミナミハンドウイルカ

の生態説明

奄美海域でよく見ることが出来るザトウクジラとミナミハンドウイルカの説明をします。

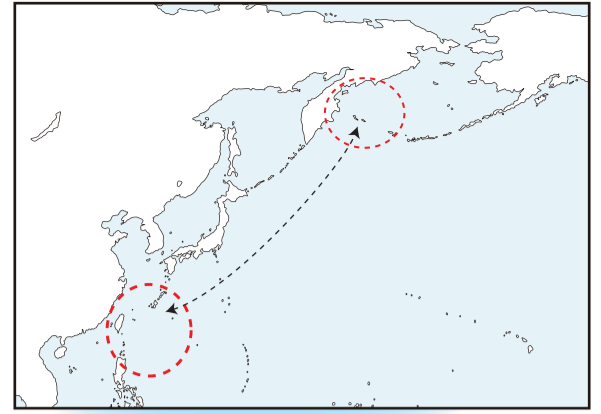
奄美の海には、冬の間多くのザトウクジラが訪れます。またミナミハンドウイルカは一年を通して見ることができます。生態を勉強し理解を深めましょう。

### ザトウクジラの歌♪

主に繁殖期にオスのみがとても長く複雑な歌を歌います。求愛のためだと思われていましたが、最近の研究では、他のオスの注意を引く意味もあることがわかってきています。



歌うオス



### 回遊

ザトウクジラは、季節ごとに移動しながら生活しています。夏の間はエサが豊富に食べられる冷たい海まで北上します。とくに奄美や沖縄で見られるザトウクジラはカムチャツカ半島沖やベーリング海峡に移動します。冬になると交尾や出産、子育てのために奄美・沖縄・フィリピン北部の暖かい海まで南下します。



### ブリーチ

体を水面から出す大きなジャンプのこと。体に付いた寄生虫などを落とすためと言われていますが、くわしいことはわかっていません。ときには全身が海から出ることもあります。



### 胸びれを使った行動

横向きになり胸びれで水面をたたいたり、あお向けになり胸びれを水面にたたきつけるペックスラップとよばれる行動があります。



### 尾びれを使った行動

尾びれを上下に動かし水面にたたきつけるテールスラップ、上下左右に動かし水面をたたきつけるペダングルスラップとよばれる行動があります。



### 尾びれ

ザトウクジラは深くもぐる際、尾びれを海面上にあげてからもぐっていきます。



### 調査について

奄美群島では、各島にある自然保護団体などがザトウクジラとミナミハンドウイルカの調査を行っています。ブローなどを手がかりに陸上と海上から探して、見つけたときの様子などを記録します。これにより、どの時期に訪れるのか、どの時間帯が多いのか、どのようなルートを使うのかなどがわかります。海上で発見した場合は、群れのサイズや行動を記録します。また、1頭1頭を見わかる「個体識別」ができるように写真を撮ります。



### ミナミハンドウイルカ

1974年に奄美大島の瀬戸内町で捕獲されたイルカは、ハンドウイルカと思われていました。しかし、その後の調査でミナミハンドウイルカだとわかりました。この発見により日本で初めてミナミハンドウイルカが確認されたことになりました。

### 回遊しない

ミナミハンドウイルカは陸地に近い海で生活し、ザトウクジラのように回遊はしません。奄美大島周辺に生息している個体群は、奄美大島や喜界島、徳之島の近海で生活しているようです。

### 群れをつくる

ミナミハンドウイルカは群れをつくって行動します。奄美大島周辺に生息しているミナミハンドウイルカは、10頭程度の群れをつくるようです。



### ザトウクジラの尾びれによる個体識別

ザトウクジラの尾びれの腹側の模様は1頭ずつがうため、個体識別ができます。



### ミナミハンドウイルカの背びれによる個体識別

ミナミハンドウイルカの背びれは後ろのふちが欠けている個体が多く、その数や形は1頭ずつがうため、個体識別ができます。

